



〔審査証明番号／有効期限〕	BCJ-審査証明-312／2030 年 10 月 30 日
〔技術の名称〕	環境配慮型ウレタン塗膜防水工法（補強布不要） 「カイザーコート工法」
〔依頼者（審査証明取得者）〕	日新工業株式会社

〔技術概要〕

本技術は、JIS A 6021：2022 ウレタンゴム系建築用塗膜防水材の高伸長形・高強度形の両区分に適合した特定化学物質障害予防規則に非該当の環境配慮型ウレタン防水材（以降「両区分適合塗膜防水材」という）を用いて、補強布を不要としたウレタンゴム系塗膜防水工法を対象とする。

本工法は、補強布無しで補強布有りの国土交通省「公共建築工事標準仕様書」のX-2仕様及び日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS8 防水工事」のL-UFS仕様に適合する工法と同等の性能が発揮されることから、補強布導入工程を省略でき、施工の省力化が可能な防水工法である。防水材の組み合わせとしては、両区分適合塗膜防水材のみを用いた構成（以降「両区分適合塗膜防水材仕様」という）と、高伸長形塗膜防水材と両区分適合塗膜防水材を塗り重ねた構成（以降「高伸長形塗膜防水材複合仕様」という）がある。

■両区分適合塗膜防水材仕様例 平場部（KF-30）

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	想定膜厚 (mm)
1	各種プライマー	—	—
2	カイザーコート	1.8	1.5
3	カイザーコート	1.8	1.5
4	各種仕上塗料	—	—

立上り部（KF-20V）

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	想定膜厚 (mm)
1	各種プライマー	—	—
2	カイザーコートV	1.2	1.0
3	カイザーコートV	1.2	1.0
4	各種仕上塗料	—	—

〔開発の趣旨〕

X-2仕様及びL-UFS仕様は、ウレタン塗膜防水層内に補強布を敷設して下地の亀裂等に対する抵抗性を向上させた仕様であるが、この仕様には、「補強布を張付けるためのウレタン防水材の施工、及び補強布張付けの施工を行う必要があり、作業工程が多く作業効率がよくない」という問題点がある。

本工法は、JIS A 6021:2022 ウレタン塗膜防水材の高伸長形・高強度形の両区分を満たす高物性塗膜防水材を用いることで、補強布敷設の工程を省略することができ、作業員数の削減や作業日数の短縮により施工の省力化が図れる技術である。

〔開発目標及び審査証明結果〕

本技術について、前記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査された結果は、以下のとおりである。

- （1）「X-2仕様」及び「L-UFS仕様」に適合する工法と同等の防水性能を有しているものと判断される。
- （2）「X-2仕様」及び「L-UFS仕様」に適合する工法より工程数が減ることで、作業員数の削減や作業日数の短縮による施工の省力化が図れるものと判断される。

〔本技術の問い合わせ先〕

日新工業株式会社

営業統括部企画広報課 TEL:03-3882-2613

技術紹介サイト

<https://www.nisshinkogyo.co.jp/product/detail/kaiser/>

